

講座のご案内

◆社会参画を目指すための講座

「はじめよう！地域活動～地域はあなたを待っている！～」

人の役に立ちたい、新しいことを始めたい方に—
いくつになっても、やれることがまだまだあります！会社や家庭以外に新たな役割をもつことが、充実した生活につながるかもしれません。地域活動の魅力を知って、一歩ふみ出しませんか？

講師：小倉 壮平さん（新潟市市民活動支援センター運営協議会 会長）

日時：令和3年12月1日（水）10:00～12:00

会場：万代市民会館 4階 403・404 大研修室

対象：ボランティアやNPOの活動、地域活動に関心のある方

定員：20人 ※応募多数の場合、抽選

保育：5人（生後6か月から就学前まで）

申込：11月16日（火）までに電話または「かんたん申込み」

電話でのお申込先：アルザにいがた（025-246-7713）

（受付時間 8:30～17:30 土日及び祝休日を除く）



詳細はこちら

◆ジェンダーで社会を考える講座「不安な時代のジェンダー」

コロナ下で労働や差別などジェンダーをめぐる問題が浮き彫りになっています。今こそ、ジェンダーについて改めて考えてみませんか？

<第1回> 身近なことをジェンダーの視点で考えてみよう！

講師：五十嵐 舞さん（新潟県立大学 国際地域学部 講師）

※講師はオンラインで講義

日時：12月5日（日）10:00～12:00

<第2回> なぜ人は被害者を責めるのか

講師：並川 努さん（新潟大学 人文社会科学系 准教授）

日時：12月12日（日）10:00～12:00

<第3回> 働く女性の現状と課題

講師：山田 和代さん（滋賀大学 経済学部 教授）

※講師はオンラインで講義

日時：12月19日（日）10:00～12:00

会場：万代市民会館 4階 403・404 大研修室

定員：各回20人 ※応募多数の場合、抽選

保育：8人（生後6か月から就学前まで）

申込：11月22日（月）までに電話または「かんたん申込み」

電話でのお申込先：アルザにいがた（025-246-7713）

（受付時間 8:30～17:30 土日及び祝休日を除く）



詳細はこちら

※講座は新型コロナウイルスの感染状況により、形式を変更しての実施や中止になる場合があります。

情報図書室よりSDGsに関する本のご紹介

～これらの本は、アルザにいがた情報図書室で借りることができます～



SDGsのきほん 未来のための17の目標⑥

ジェンダー 目標5

稲葉 茂勝/著, 渡邊 優/監修 ポプラ社

本書は、1巻につき1目標ずつSDGsの解説をしている児童書です。イラストや地図、データ資料がとても分かりやすく、内容の濃い一冊です。男女格差の現状や背景を理解でき、ジェンダー平等を実現するために何をすべきだろうと深く考えさせられます。



FRaU 2021年8月号

SDGs ニッポンの宿題。

講談社刊

本号のテーマで注目すべきは、「ジェンダー&ダイバーシティ125の意見。」です。用語解説、フェミニズムの歴史や有識者による様々な意見、本の紹介、時代とともに変わるドラマ・アニメ・音楽のジェンダー観など盛りだくさんで読み応えがあります。



マンガで世界を救うぞ! SDGsマンガ化計画

一般社団法人SDGs×マンガのチカラ/編,
御茶漬海苔, 倉田よしみ, 山田貴敏, 藤沢とおる/ほか作
講談社エディトリアル

17人の人気漫画家がSDGs17個の目標をマンガで表現しています。マンガをきっかけにSDGsについて興味をもつことができ、懐かしのキャラクターが描かれているので身近に感じられる一冊です。



アルザにいがた情報図書室は、

新潟市立図書館のカードで貸出ができます。

開室時間：月曜～金曜 10:00～17:30

休室：土日及び祝休日、第1水曜、第4月曜、年末年始、蔵書点検期間

✉ メール配信「アルザ情報」

講座情報等を月1回のペースで配信しています！ぜひご登録ください。



alza@city.niigata.lg.jp

←件名を「アルザ情報希望」としメールを送ってください♪

本文は不要です。受信後、確認の返信メールを送付します。

土日及び祝休日を除き、3日後までに届かない場合は、お手数ですがアルザにいがたまでご連絡ください。



男女平等をともにすすめる情報紙

アルザ

SDGsとジェンダー平等



2021年11月 vol.48

アルザにいがた

～2021年8月に開館30年目を迎えました～

発行/新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」
新潟市中央区東万代町9-1 万代市民会館内
電話：025-246-7713 8:30～17:30 土日及び祝休日を除く
URL: https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/danjo/alza/
E-mail: alza@city.niigata.lg.jp



「アルザ」は、「士気を高める」、「高揚」という意味のスペイン語の「alza(アルサ)」が語源。開館5周年の公募で決定、センターが男女共同参画について意識を高める場であってほしいという願いが込められています。



アルザにいがた Twitter

講座情報や新着図書情報、職員が日常で感じたジェンダーに関することをつがやっています。コメントや♡(いいね)、お待ちしております♪



情報紙のご意見・ご感想をEメールでお寄せください。



SDGs とジェンダー平等

最近、「SDGs」という言葉をニュースなどで目にする機会が増えています。SDGsの5番目の目標はジェンダー平等です。SDGsとジェンダー平等について考えてみましょう。

活躍する女性をご紹介します⑬

今回は「ふじみ子ども食堂」を運営するNPO法人にいがた子育てステーション理事長の立松有美さんをご紹介します。

【PROFILE】

地域の子どもは地域で見守り、地域で生きる力を育むための「子育て拠点」になりたいと、仲間と共に2015年夏「にいがた子育てステーション」を設立（2016年7月法人化）。2016年1月東区に新潟県初の子ども食堂「ふじみ子ども食堂」を始める。新潟市を中心に「子育て支援ファシリテーター」として公民館の家庭教育学級やアンガーマネジメント等のファシリテーターとしての活動も行っている。



■「ふじみ子ども食堂」を立ち上げたきっかけを教えてください

子ども家庭支援をしている仲間の横尾、久住より、「公的な支援から外れたところに、支援の必要な子どもたちがいるんだよね。そういう子どもたちを地域で支援するには『子ども食堂』が良いと思うんだけど」と提案があり、東京の子ども食堂を見学。これだ！という感触を得たので、3人で子ども食堂を立ち上げることにしました。

地域で子どもたちや保護者を支援するには、その子どもや家庭が孤立しないで地域と繋がりがあうことが大事です。しかし、近所付き合いが希薄などの理由で繋がるのが難しい現状があります。

『子ども食堂』は地域の人々を繋ぐ仕掛けとして機能するだけでなく、来てくれた方々に対して食を通して、直接支援ができるという面もあります。

■「ふじみ子ども食堂」の活動内容を教えてください

現在、毎月第2・4木曜の17時30分から18時30分に新潟市職業訓練センターにて、お弁当配食（※基本予約制）と中学生から大学生等の学生に向けた食糧支援「学生応援！フードパントリー」を実施。毎回160食のお弁当を地域のボランティアさんと協力しながら作っています。

コロナ以前の「ふじみ子ども食堂」は、会話をしながら和気あいあいと食事をしたり、子どもたちはボードゲーム等で遊んだりしていました。コロナ禍となり、どうしても三密を避けられないので、現在は会食をしていません。

■各地域で活動している「子ども食堂」で私たち市民が協力できることはありますか

まずは近くの「子ども食堂」に顔を出してください。そこで、いろいろな方々と顔見知りになってください。それが地域の繋がりになります。顔を出してお手伝いしたくなったらボランティアを、ご寄付等も嬉しいと思います。どこの子ども食堂も満員ですので、仲間たちと子ども食堂をスタートするのもアリです。

SDGsとは

「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals）の略称で、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられた世界目標です。「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現に向けた17のゴールと、それらをより具体的に示す169のターゲットが2030年までに達成する目標としてつくられました。具体的には貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会などの課題が挙げられています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



目標5 ジェンダー平等を実現しよう



SDGsの5番目の目標が「ジェンダー平等を実現しよう」です。

性別による差別をなくし、すべての女性と男性が対等に権利・機会・責任を分かち合える社会を作ること、女性が自分のことを自分で決めながら生きる力をつけられるようにすること（エンパワーメント）を目標としています。

具体的には、女性に対する差別・暴力・不利益な慣行の撤廃、介護や家事などの無償労働を認識・評価、意思決定の場への参加とリーダーシップの機会を確保、妊娠や出産に関する女性の権利を守ることを掲げています。

SDGsの中でジェンダー平等は重要なテーマ

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」前文では「すべての人々の人権を実現し、ジェンダー平等とすべての女性のエンパワーメントを達成することを目指す」とうたわれ、ジェンダー平等の実現はSDGs全体の目的となっています。本文でも「ジェンダー平等の実現と女性のエンパワーメントは、すべての目標とターゲットの進展に極めて重要な貢献をするものである」と述べられており、17のゴールのすべてにおいてジェンダーの視点が盛り込まれています。

日本のジェンダー・ギャップ指数

各国の男女格差を測る「ジェンダー・ギャップ指数」を世界経済フォーラムが公表していますが、2021年の日本の順位は156か国中120位でした。この指数は経済、政治、教育、健康の4つの分野で構成され、日本は経済分野（117位）、政治分野（147位）で特にスコアが低く、世界的にも遅れをとっています。

ジェンダー平等の実現を目指して

SDGsを達成するためには、「自分にできることはなんだろう？」と私たち一人ひとりが自分のこととして考えることが必要です。ジェンダー平等の実現のためには、「職場で差別があったら声を上げる」「国や地方自治体のリーダーを選ぶ権利を上手に使う」など、日常生活でもできることがあります（出典：国際連合広報センター）。家庭・学校・職場等、身近な人と協力をしながら、できることから行動していきましょう。

わたしたちの日常でも、SDGsの達成にできることがたくさんあります。国際連合広報センターの、「ナマケモノにもできるアクションガイド」を参考に、一人ひとり行動していきましょう。出典：国際連合広報センター https://www.unic.or.jp/files/sdgs_201901.pdf

レベル1 ソファに寝たままできること
・いいね！するだけじゃなく、シェアしよう。女性の権利や気候変動にソーシャルメディアでおもしろい投稿を見つけたら、ネットワークの友達にシェアしよう。

レベル4 職場でできること
・女性は男性と同じ仕事をして、賃金が10%から30%低く、賃金格差はあらゆる場所に残っている。同一労働同一賃金を支持する声を上げよう。

学校でのSDGsの取組みを新潟市立高志中等教育学校よりお聞きしました。



高志中等教育学校では、一昨年度より生徒会が中心となって、SDGs活動を推進しています。ユネスコスクール*の申請を機に、元ユネスコ事務局長松浦晃一郎様を迎えての講演会&パネルディスカッションを行い、全校生徒のSDGsに対する意識向上を図りました。また、南商工振興会など地域の皆さんとともに、学校のそばにある鳥屋野湯の環境保全活動などに有志で取り組みました。



本年度より、SDGs推進委員会が発足し、その活動を活性化するとともに、オンラインによる日韓SDGs協働プロジェクトにも取り組んでいます。

今後、市内のユネスコスクールの学校とも連携し、

勉強会や合同での活動にも取り組みたいと考えています。

*ユネスコスクールとは…

ユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校。世界180か国以上の国で約11,000校、日本では1,120校（令和元年度）が加盟している。国内外の学校との交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発を目的とする。

